

デジタル時代の美人画について

国際ファッション専門職大学
木村智博

1 はじめに

近年、「美人画」と呼ばれる作品が注目されている。日本でも浮世絵に代表される美人画など、多くの美しい女性が描かれてきた。最近では新しい技術を使った美人画も注目され、若者を中心にパーソナルコンピュータ(以下、PC)やiPadによるデジタルペイントも増加している。私自身油彩による絵画制作から、PCを主としたデジタル制作に移行してきた中で、PCで描いたものを印刷してから鉛筆で加筆し、さらにPCに取り込み彩色し、印刷したものに上から透明水彩やアクリルガッシュ等で彩色するなど、デジタルとアナログを組み合わせながら制作するというスタイルに変化してきた。美人画を通じた絵画およびイラストレーションの表現研究、展覧会等での発表を報告する。

2 デジタルとアナログを組み合わせた制作過程

制作過程として、大まかに分けて5つの工程がある。第1に、クリップスタジオペイント¹⁾を使用してPC上でラフスケッチを描き、下絵のもとになる絵をつくる(図1)。この段階では大まかな構図や髪の毛の流れをつくるのみで、あまり細かい部分までは描かない。第2に、イラストレーター²⁾というソフトで先ほどの画像をアートボードに配置し、髪の毛や花などの細かいパーツをレイアウトする(図2)。第3に、ケント紙³⁾に明度をあげて薄くした画像を印刷し、鉛筆や

シャープペンシルで描いていく。ケント紙を使用する理由は、細かい描きこみができることと、スキャナーで下絵を取り込む際、紙の表面が凸凹のある水彩紙よりも紙の表面がなめらかなケント紙のほうが紙の質感が出にくくPCでの彩色がやりやすいためである。この時に、細かい部分まで描きこむことで下絵が完成する(図3)。第4に、この下絵をスキャナーでPCに取り込み、デジタルで彩色していく。少しぼやけた印象の鉛筆線をはっきりとさせるためと、塗りつぶしを楽に行うため、線をPC上でもう一度トレースする。パーツごとに塗りつぶしを行い、陰影をつけるなど丁寧に描きこむ。フォトショップ⁴⁾で色調整



図1 クリップスタジオペイントでのラフスケッチ



図2 イラストレーターを用いて、花や髪などのパーツを構成する



図3 印刷した上からシャープペンシルで描く

等を行い、デジタル上での完成となる(図4)。最後に、作品を展覧会に出品する場合は、紙に印刷するだけでは、筆跡が残りにくく絵具の凸凹もない無機質なものになりやすいので加工を行う。印刷前にアルシュ水彩紙⁵⁾に白のアクリルガッシュを塗り下地をつくってから印刷を行う。アルシュ水彩紙は300g極細を使用する。印刷では表現できない色を出すために、印刷の上からアクリルガッシュで印刷と同系の色で重ねるように塗っていく。さらに細かい線を追加するために色鉛筆等で描いていく。絵具の凸凹や色ムラができることで、デジタルでは表現できない質感をつくることができる。このように、デジタルとアナログを組み合わせることで、独特の質感をつくることができ、PCやスマートフォンの画面で見ている作品と違い、また、印刷の複製できる作品と違い、原画として作品を発表することができる。



図4 PCに取り込み彩色

3 グループ展、個展、活動について

2019年は個展を開催しグループ展にも参加してきた。近年、SNS等で作品を見てもらうことができるようになったが、展覧会に参加することで直接来場者から意見や感想を聞くことができる。展示での出会いから次の展示につながることも多い。2019年3月から11月までに参加した展覧会についてまとめた。

3.1 「^{ぎつないえ}雑ナ家 Vol.5」

2019年3月6日～3月11日／大阪／イロリムラ。

「雑ナ家」展は、2015年から大阪中崎町にあるイロリムラで毎年開催している4名でのグループ展である。グループ展ではそれほど作品を展示することはできないが、この展示に関しては、展示スペースの広さもあり、私の作品だけで大小20点以上の作品を展示することができる。年度末に開催することから、さまざまな作品を展示することで、1年間を振り返り、今後の作品の方向性を考えることができる展覧会となっている（写真1）。



写真1 展示風景（2019年3月6日筆者撮影）

3.2 「あなたが思う日本の美人／

les femmes japonaises」

2019年3月26日～3月30日／フランス、パリ／エスパスジャポン。

2019年3月にフランスのエスパスジャポ



図5 出品作品「ふたり」

ン (espace Japon) で開催されたグループ展である。NANIWA GIRLIE&BOLIE 企画の一環として関西在住の日本人アーティスト15名と、パリ在住のフランス人アーティスト5名、合計20名によるコラボレーション展として開催された。このスペースは、日本語教室や料理教室が開かれるなど、親日のフランス人に馴染みのある場所である。来場者は日本に関心のあるフランス人で、日本の漫画にも興味があることから、漫画のようなキャラクターや着物を着ている女性の作品がとくに人気があったようである。1点のみの出品となったが、日本をイメージした赤と水引きをモチーフにして作品の中に取り入れた（図5）。これまで日本の着物に描かれている和柄にはあまり関心がなかったが、海外での展示をきっかけに日本をイメージした柄や着物を取り入れた作品も描くようになった。

3.3 「VIEWs」

2019年5月13日～5月18日／東京／ギャラリーアートポイント。

2019年5月に東京銀座にあるギャラリーアートポイントで開催された14名によるグ



図6 「VIEWS」展 DM

ループ展である。私は大小あわせて4点の作品展示を行った。グラフィックや立体、絵画など作風の違う作家の集まりである。これまでの東京での展示は1～2点程度の展示であったが、「VIEWS」展では4点の展示となった。直接、ギャラリーで来場者と話すことはできなかったが、この展示を見た方が11月に開催された「関西美人画のすすめ Vol.1」にも来場され、話すことができた。気になる作家の別の展示に来場される人も多く、目に触れる機会を増やすことが大切であると感じた。(図6)。

3.4 「令和のポップカルチャー展」

2019年8月31～10月3日／大阪／HOME HOSTEL OSAKA。

大阪、恵美須町にあるホステルの1階を利用したギャラリーであり、海外からの宿泊客も含めさまざまな人々に作品を見てもらえるスペースとなっている。そこで16名の作家による令和時代のポップカルチャーをテーマとした展示を行った。1人3点程度の展示であったがイラストレーション、アートの分野で活動している作家が集まり、作風の違うカラフルでポップな印象の作品が展示された。ワークショップができるスペースもあり、宿泊者と作家が交流できるようにもなっている。海外のホステル等と連携し、海外での展示にも発展していく可能性がある展覧会となった(写真2)。



写真2 展示風景 (2019年9月1日CO'NY撮影)

3.5 「花蝶風月」

2019年9月12日～9月24日／大阪／アトリエエプリス。

2019年9月に大阪市東成区中本にあるギャラリー、アトリエエプリスで開催した個展である。ギャラリーが蝶や植物をテーマにした企画展を普段から行っているため、花鳥風月の鳥を蝶としたタイトルにした。作品に花や月などのモチーフを入れることも多いので、4つのモチーフを中心に作品制作を行った。合計20点の作品と下絵も展示し、制作過程から完成までの流れを展示することで、鑑賞者にどのように作品がつくられているのかを見せることができた(写真3)。岡山、広島、静岡、東京など遠くからも来場いただいた。普段からSNSで私の作品を見て興味を持ってくれた方が、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックやタンブラーといったSNSで告知を見て個展のことを知り、訪ねてくれたケースが多かった。これまで大阪での展示では関西以外から来られる方はあまりいなかったが、SNSでの告知を1カ月前



写真3 展示風景 (2019年9月12日筆者撮影)

からはじめ、開催期間中は毎日告知することで、仕事で大阪に来た機会を利用して来場された方もいた。SNSで頻繁に更新して多くの方に展示について知ってもらう大切さを感じた。

3.6 「関西美人画のすすめ Vol.1」

2019年11月12日～11月17日／東京／メゾンダール・ギンザ。

関西在住の作家3人の美人画をテーマとしたグループ展である。銀座はギャラリーも多く、近くのギャラリーでも多くの展覧会が開催されていた。東京での展示では、これまで少ない作品数を出品するだけであったが、はじめて12点の作品を展示した。土日のみ画廊、来場者の方と話をすることもできた。すべて手描き作品でないと美術作品として認めてくれない年配の方もいたが、20代30代の方は、印刷を含んでも美術作品としての価値を認めてくれることが多かった。また、関西では、色鮮やかな作品に興味をもたれる方が多いが、東京では淡い色の作品に興味をもたれる方が多かった。東京でどの程度来場者が来られるのか心配であったが、若い方から年配の方、美人画の企画展を開催している違うギャラリー関係の方々の来場もあり、幅広い客層の方々に来場いただけたと感じた。東京での展示をきっかけに、今後の展示では、手描きのみで完成させる作品と、PCと手描きを組み合わせて制作する作品の2つの方向性で制作することも必要であると



写真4 展示風景 (2019年11月17日筆者撮影)

考えている (写真4)。

4 「むか～し昔カレンダー 2020」

展示だけでなく、カレンダーへの作品提供を行った。有限会社サンクラールの箔を使った特殊印刷加工技術『Sブリズムプリント®』を使用したカレンダー「むか～し昔カレンダー 2020」にクリエイターとして参加した。日本画では金箔や銀箔などは人の手作業で行われるが、近年では印刷会社にお問い合わせ、印刷でも箔押しができるようになってきている。その特徴は、「印刷後に箔を押す通常の箔加工とは異なり、箔の上に印刷することで箔の多色化とグラデーションをわずか2工程で実現するのはもちろん、他に類を見ない圧倒的な特徴を放つのが、熟練技術者の匠の技によって施される精緻で自由なエッチングデザイン」[サンクラール HP] である。

この技術を使ったアートカレンダーの制作に7人のクリエイターの1人として作品を提供し参加している。今の段階では特殊な版をつくってから制作となるため、非常にコストがかかってしまう。企業で制作する商品のラベルなどあまり一般に普及している技術ではないが、今後このような技術がコスト面でも安くなり普及すると、これまでの印刷のみの作品と異なり、版画などの美術作品と同様に、印刷でも価値のある作品として展示できる可能性がある (写真5)。

5 まとめ

ツイッターやインスタグラム、インターネットのサイトで多くの方に作品を見てもらうことができる環境になったが、作品を直接見た感想を聞くと、SNSで人気のあった作品と展示した作品では反応が違うことも多い。展示する場所により客層が異なり、好まれる作品に違いがでてくるのだと思われる。反応の良い作品をつくるのが目的になってはい



写真5 むか〜し昔カレンダー 2020
(2019年9月24日筆者撮影)

けないが、このような展示での意見は貴重なもので、次の作品や展示に生かされることも多い。大阪と東京で展示を行ったことで、大阪と東京で好まれる作品に違いがあったことや、年代によっても、手描きの方がより価値があると感じる年代や、デジタルそのものに抵抗がなく、好意的に受け取ってくれる年代があることがわかった。来場者からの意見を参考に、今後の展示につなげていきたい。

<注>

- 1) 株式会社セルシスが販売しているペイントソフト。イラストやマンガ等で使用されている。
- 2) アドビシステムズが販売しているグラフィック・ソフト。フォトショップのビットマップ画像と違い、ベクターデータを扱いどれだけ拡大してもエッジを綺麗に印刷できる。イラスト・デザイン等で使用されている。
- 3) 表面が滑らかで固めの紙。製図などの細かい描画に向いている。
- 4) アドビシステムズが販売しているグラフィック・ソフト。写真加工やデザイン、イラスト等で使用されている。
- 5) フランス製水彩紙。コットン100%を使用し、吸水性と耐久性がある。500年以上使用されている。荒目、細目、極細目の3種類がある。

<参考文献>

インターネット資料

サンクラール

<http://sunklarl.co.jp/s-prism/> 2019年9月17日閲覧。